

Q 1 基本方針から計画へ掲載すべき各章の項目について、選択してください。

※下記項目については選択肢から除外していますが、下記項目についても引き継いだ方が良いと感じる場合は、「その他」を選択のうえ、項目名の記載をお願いいたします。

- ・第 1 章 基本方針改定の経緯と基本方針を定める目的
（基本方針を定める経緯及び目的であり、計画については別途目的等を記載する予定のため。）
- ・第 2 章 市民協働の定義と主体
（市民協働の必要性については、計画の概要部分で趣旨を記載予定のため。定義・原則・市民協働の主体・中間支援組織については条例に記載済みのため。）
- ・第 5 章 府中市が目指す市民協働の姿と今後の方向性 1～7
（今後の重点的な取組みについては、内容を検討のうえ計画に反映させる予定のため。）

選択肢	回答者数
第 3 章 1 各主体の特性と役割分担	9
第 3 章 2 中間支援組織の役割	8
第 3 章 3 市民協働の主な効果	9
第 4 章 1 市民協働の形態	8
第 4 章 2 市民と市の関係性と協働の領域（文章）	6
第 4 章 2 市民と市の関係性と協働の領域（図 4－1）	9
第 4 章 3 市民と市との協働に適している事業	8
第 5 章 府中市が目指す市民協働の姿と今後の方向性（リード文）	10
第 5 章 府中市が目指す市民協働の姿と今後の方向性（図 5－1）	9
第 5 章 府中市が目指す市民協働の姿と今後の方向性（図 5－2、図 5－3）	9
用語解説	4
その他	2

Q 2 上記で選択いただいた各章の項目のうち、具体的に計画へ掲載すべき内容について、箇条書きで記載をお願いします。

第 3 章 1 各主体の特性と役割分担
・各主体の特性と役割分担
・どの主体に属していれば、どのような形で協働に参画できるかまで分かるように記載してはどうか。
第 3 章 2 中間支援組織の役割
・第 3 章 2. 中間支援組織や役割団体のコーディネート力向上（勉強会や情報交換会）
・どの主体に属していれば、どのような形で協働に参画できるかまで分かるように記載してはどうか。
第 3 章 3 市民協働の主な効果
・第 3 章 3. 各役割分担の効果測定（アンケート調査）
第 4 章 1 市民協働の形態
第 4 章 2 市民と市の関係性と協働の領域（文章）
・市民と市との関係性と協働の領域
第 4 章 2 市民と市の関係性と協働の領域（図 4－1）
・市民と市との関係性と協働の領域
第 4 章 3 市民と市との協働に適している事業
・第 4 章 3. 市民と市との協働に適した事業の件数
・どのような事業が協働として実施可能かの提示は必要と思う（（1）性質上の視点（2）効果の視点）。
第 5 章 府中市が目指す市民協働の姿と今後の方向性（リード文）
・中間支援組織の実働と評価

第5章 府中市が目指す市民協働の姿と今後の方向性（図5－1）
第5章 府中市が目指す市民協働の姿と今後の方向性（図5－2、図5－3）
用語解説
その他
・第2章 市民協働の定義と主体 ・第2章の、定義、主体については、条例にあるとしても、条文の硬い雰囲気ではなく、市民が主体的に進める部分もあるかと思うので、計画にも分かりやすく記載をする必要があるように思います。 ・第5章 3. 中間支援組織への相談件数や、主体同士の協働（マッチング）件数 ・第5章 4. 企業や大学などとの連携強化件数（連携協定） ・第5章 4 多様な主体同士の連携の拡充 ・第5章 6. 中間支援組織育成の認定や評価制度 ・第5章 6 コーディネート機能の拡充 ・第5章 府中市が目指す市民協働の姿と今後の方向性（「計画」という観点からは、第5章に示されている「重点的に取り組む」項目がもっとも大事な内容だと考えます。） 1 市民協働に関する効果的な意識啓発 2 職員の協働に関する実践力の向上 3 市民協働の拠点としての市民活動センター プラッツや文化センターの活用 4 多様な主体同士の連携の拡充 5 市民協働を促進する環境の整備 6 コーディネート機能の拡充 7 市民協働の取組の進行管理と条例の検討 ・第1章は仰せのとおりだと思います。第2章第5章は、その内容が基本方針に書かれていることを踏襲して計画書には詳細が書かれているなら転載は不要かと思います。（第1章以外はすべて具体的に掲載すべきかと思います。）
その他のご意見
・現状の計画で特に問題ないかと思います ・全体的に、どんな計画がありそれについて、どんな政策をしているのか市民の皆様に分かりやすく掲載したほうが良いと感じました。 市民協働とは何かが分かりやすく掲載されている一方で、各内容が難しく理解ができないところが多い。 ・また、いくつか選択してみました。そのままに記載ということではなく、計画へは具体的な実施について記載すべきだと思いますので、そのままの掲載というイメージではないです。かといって、明確にイメージができるところまではいっていません。 ・こちらのアンケートで問われていることがイマイチつかめていないのですが、計画書がどのような体裁になるのか次第かと思います。計画書は本来独立しているべきで、計画書を読むのに基本方針書を参照しなければならないようではよくないと思います。その意味では計画書は必ず基本方針書に書かれていることを踏襲した記載から始まると思いますので、基本方針書に書かれている内容はすべて掲載すべきとも言えます。 ・市民協働に関する基本的な事項なので、上記の内容（選択肢全て）については記しておくべきかと思います。（具体的なパートについての指摘ではなくて、ごめんなさい。）

Q 3 基本方針には記載がないが、今回策定する計画で新たに記載した方が良いと感じるものについて、箇条書きで記載をお願いします。

- ・理想とする協働を実現するための夢の育成
- ・協働の種の育成の伴走→伴走するだけでなく成果→評価まで持っていきたい
- ・共創への窓口提案件数と成約数
- ・新たに追記する項目はないと思われます
- ・計画の主要は、市の行動計画となるかと思いますが、前半にうたわれるであろう、目的や背景、宣言・条例・計画の関係図、また定義や主体、基本理念などは市民向けに優しい表現が良いように思っています。
- ・重点的に取り組む7つの項目について、それぞれ、より具体的な施策レベルに落とし込むとともに、実行の結果が評価できるようなKPIを示せるとよいと思います。
- ・具体的な出来上がりイメージと時期、それまでのマイルストーン。それぞれの主体が何をどのように行動したら、どのようになっていくのがイメージできるものがあるとよいと思います。
- ・市民という言葉の「定義」については、もう少し検討して、アップデートしても良いかなと思いました。現状の『基本方針』では「resident」（居住者）というニュアンスが強い定義になっていますが、この言葉には「citizen」、つまり「市民・公民＝社会や地域に参加する主体」という言葉も含まれていますので、その観点から少しだけ加筆しても良いかとおもます。。
- ・協働の現状がわかる「統計データ」
- ・協働の理念、到達目標、キャラクター紹介（きょうちゃん・どうちゃん）
- ・協働における対象分野
- ・他の行政計画との関係性
- ・市民参加の具体的な手法
- ・分野横断横断（庁内横断）の推進体制と役割分担、職員教育の方針

Q 4 皆様ご自身の活動において、市民協働に関して課題と感じていることがあれば箇条書きで記載をお願いします。また、その解消策についても思いつくものがあれば併せて記載をお願いします。

・学校内フリースクールや学校内カフェなどを実行していくために、小中学校や、都立高校（具体的には、農業高校と工科高校）などの学校施設の活用

・気持ちがある人を動かせる人材の発見や育成

・いわゆる現役世代の関りが少ないので、気軽に地域の課題を提示し、SNSやLINEなど活用することで解決できないか。

・市民の危機意識が弱いため、主体的な関りも少ないと感じます。統計データなどから府中市の未来や近隣市を映像や画像で可視化できないか。

・現状、自治会の自治連加入は年々減少傾向にある。又、個々の自治会の会員数も減少傾向にある。

・役員、班長の成り手も少なく自治会活動にも影響が出ている

・協働に対する市民の意識をより高める施策があったら良いと感じる。

・私自身、市民協働の例について、具体的なイメージがまだまだ把握できていないように感じます。府中市では、市と市民（個人・団体・事業者など）が協働して地域課題に取り組む活動や、また施策に関連する事業を基本にしつつ、広義の意味では、地域の課題解決に向けて、市が直接関与しない活動であっても、「公共的な目的を持つ地域団体の活動」については、広義の「協働の担い手」として計画に位置付けられるものでしょうか。例えば、当法人で申し上げますと、わがまち支えあい協議会（高齢者支援課の生活支援体制整備事業においては、協議体の1つとして位置付けられている）などは協働にあたるのでしょうか。推進会議に参加されている、自治会、コミュニティ協議会、NPO団体、任意団体が、市と直接の協働の形態がなくとも地域課題解決のために行っている活動は、広義の協働と呼んで良いものか。

市民に期待される部分はまさにそこだとすると、協働の在り方に関する 第一段階（市と市民）、第二段階（市が直接は関与しない）があることを、整理しても良いのではないかと考えました。

・必ずしも市民協働という観点から見た課題ではありませんが、いくつか課題と感じていることを記載します。

1. 滞日外国人との多文化共生の施策が不十分であるように思います。現在の国際交流サロンを国際交流協会に格上げすることで、自立した組織として活動できるようになることを期待します。

さらに、市外から人の移住を促進するような、魅力のある街づくりに向けての取り組みを拡充する余地があると思います。

2. 府中には多くの緑道があり、歩行による移動や健康促進に役立っていると感じますが、緑道と緑道がつながっていないところがあり、回遊性を損なっているように思います。既存の緑道と緑道をつなぐ新しい緑道を設けることで、歩行者の回遊性を増すことで、街の魅力が高まることを期待します。

3. 府中は街道筋の宿場町として発展した経緯から、近世の蔵が残っていますが、多くは放置されているように見受けられます。蔵の所有者と連携して蔵を歴史的景観として現代に蘇らせることで、街の魅力が高まることを期待します。

最後に、上記とは逆の方向になりますが、人口減少が進む中で、一つの市だけですべての都市機能（学校教育、医療、コミュニティ交通網など）を維持することにも限界がくると予想されます。近隣の市との連携をはかる連携中枢都市圏を構築することを考え始めるべき時期ではないでしょうか。そのためには市民の協働が不可欠だと考えます。

・10年を超えて、箱モノや枠組みの整備は進んでいるように思いますが、肝心の市民への浸透について、ほとんどできていないように思います。

広報活動が弱いこともありますが、単に広告・宣伝すれば浸透するわけではないので、運用にもしっかり重点をおき、実績を重ねていくことが大事かと思います。

・（課題）

・市民参加の参入障壁の高さ／担い手の固定化／市民を育てる仕組みの不足

・ボランティアの失敗（「素人」的運営による弊害）／市民活動の「商業化」（収益的視点を重視しすぎてしまうこと）

・市民活動の「下請化」（行政の意向に沿った活動を重視しすぎて、自立性が失われてしまうこと）

・当事者主体の罣（市民に任せて失敗した時に負のレッテルをはられてしまうこと）

（※解決策まで示せていません。ごめんなさい）